

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより **29** 号



竣工当時の間島記念図書館

1929年10月に竣工した学院の中央図書館は、私財を投じて図書館建設を援助した間島弟彦・愛子夫妻に敬意を表し、「間島記念図書館」と命名された。関東大震災前の大講堂に倣いコリント式の円柱を建物正面に配置し、3階建て（書庫は4階建て）の鉄筋・鉄骨コンクリート造。書庫は約10万冊を所蔵し得る広さを持ち、2階の大小の閲覧室は約150名を収容できた。その後、1955年に収蔵スペースの拡張のため、大規模な増築工事を行い、収蔵冊数、閲覧席ともに2倍以上となった。そして、さらなる収蔵スペース不足の解消のため、1977年に現在の大学図書館（収蔵冊数：約27万冊、座席数：約600席）が完成し、一部の書庫を除き、図書館機能が間島記念図書館から引き継がれ、間島記念図書館の多くの部分は学院の資料センターとして利用され、「間島記念館」と改称された。

学院創立150周年を迎える今年4月、「マクレイ記念館」と称される大学新図書館（収蔵冊数：約150万冊、座席数：約1500席）が開館予定である。間島弟彦の遺志が、現代の「青学マインド」と融合し共に響き合い、新図書館においても受け継がれていくことを期待する。



閲覧室の様子（1937年頃）

青山学院史探訪

青山キャンパスに眠る遺跡～伊予西条藩松平家の江戸上屋敷～ 岩井浩人—2

資料センター所蔵資料紹介

三浦徹 訳『千代の礎』第三版について 望月宏計—4

資料センター利用状況・日誌抄—6

受入れ資料—7

利用案内ほか—8

青山キャンパスに眠る遺跡 ～伊予西条藩松平家の江戸上屋敷～

大学文学部史学科准教授 岩井 浩人

皆さんは、青山キャンパスの敷地内に遺跡が眠っていることをご存知だろうか。青山キャンパスでは過去に、大学敷地内で3ヶ所、高等部敷地内で2ヶ所、初等部敷地内で1ヶ所の発掘調査がおこなわれており、旧石器時代や縄文時代、近世～近代の遺跡が存在することが明らかになっている。特に、近世～近代の遺物・遺構の残りが良く、青山キャンパスの歴史を読み解くための貴重な資料となっている。ここでは、青山学院の前史となる江戸時代の遺跡について紹介してみたい。

江戸時代のはじめ、青山キャンパスの地は旗本・長谷川久三郎なる人物の屋敷地の一角となっていた。平成19年から行われた大学17号館建設に伴う発掘調査では、長谷川家の時期と考えられる17世紀代の井戸が見つかり、そこから陶磁器や銭などが出土している。しかし、この時期にさかのぼる資料が青山キャンパス内で見つかることは珍しく、屋敷地内部の様相は全くといって良いほど分からない。

その後、元禄8(1695)年には長谷川家の屋敷地の一角が、伊予西条藩松平家の屋敷地と交換されることとなり、現在の青山キャンパスとほぼ等しい範囲が松平家の江戸上屋敷となった。現在の青山キャンパスは、国道246号(旧大山街道)と、そこから南に延びる2本の道路によって敷地の北側・東側・西側が区画されているが、3本の道路による同様の区画は江戸時代の絵図にも描かれており、当時の地割りが現在に至るまで生き続けていることが分かる。

さて、松平家の拝領期になると出土する資料の数は大幅に増え、屋敷地内部の構造についても検討が可能となっている。紙幅の関係から全てを紹介することはできないが、以下では発掘成果の一部について紹介していきたい。

青山キャンパスで最初の考古学的な発掘調査が行われたのは平成3年のことである。旧青学会館の増改築に際し、工事に先立つ発掘調査が東門の隣接地で行われた(図1)。キャンパス東端

の狭い範囲の調査であったが、膨大な数の資料が発見され、その多くが江戸時代(特に後半)から幕末に属するものであった(写真1)。また、発見された遺構群は、池や水路からなる西側の空間と、長屋建物とゴミ穴群からなる東側の空間に分かれており(図2)、後者のゴミ穴には大量の生活用具が廃棄されていた。しかも、東西の空間は道路と塀で隔てられており、場を明確に分ける意識が存在していたものと見られる。

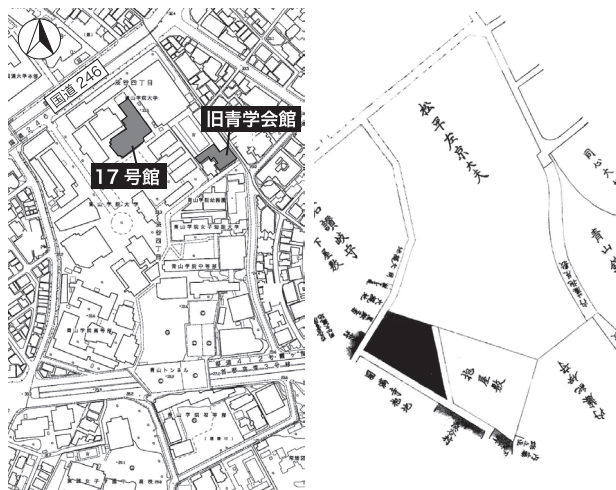


図1 現在の青山キャンパスと幕末の絵図
(土本医2010より転載・改変)



写真1 出土した陶磁器
(青山学院構内遺跡調査委員会1994より転載・改変)

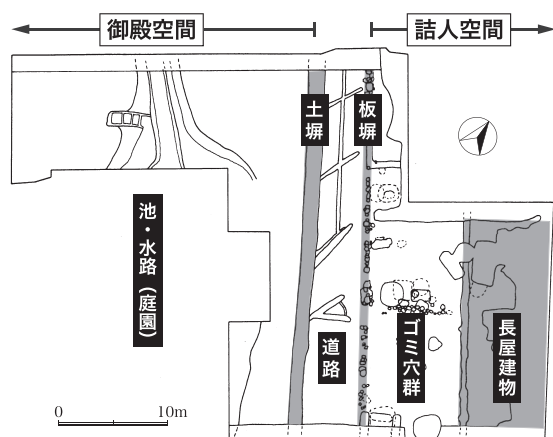


図2 旧青学会館改築時の調査で出土した遺構と空間構成
(青山学院構内遺跡調査委員会1994より転載・改変)

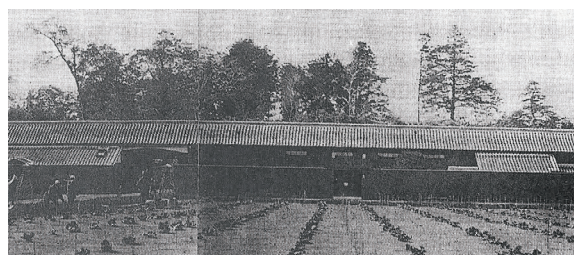


写真2 明治初期の長屋と板塀
(青山学院構内遺跡調査委員会1994より転載・改変)

こうした遺構群の配置状況は、一体何を示しているのか。それを読み解くヒントは、「御殿空間」と「詰人空間」という江戸藩邸の空間構成にあるようだ。

御殿空間というのは、江戸藩邸の中核部にあたり、御殿やそれに伴う庭園などで構成される。一方、詰人空間は家臣団の居住域にあたり、長屋建物などで構成される。江戸藩邸は、御殿空間とそれを取り巻く詰人空間とで大きく構成され、御殿空間は塀や門によって囲まれるという(吉田伸之1988)。

これらを前述の発掘成果に当てはめると、調査区の西側は庭園を伴う御殿空間、東側は長屋建物を伴う詰人空間と理解することができる。要するに、屋敷地の外周部に家臣団が生活する長屋が建ち並び、その内側には遮蔽物で囲われた御殿や庭園が展開する景観が復元できるのである。なお、明治4(1871)年に屋敷は収公され、青山キャンパスの地は開拓使用地となる。その頃に敷地内部から撮影された写真には、板塀の外側に長大な長屋が立ち並ぶ姿が写し出されており、前述の発掘の成果とも整合する(写真2)。

このほか、屋敷地の西端にあたる高等部の調査でも、詰人空間の存在を示唆する遺物や遺構

が発見されており、青山キャンパスの外周部に沿って家臣団の居住域が展開していたことが分かる。こうした詰人空間とされる調査区からは、屋根に葺く瓦、飲食に使用する陶磁器、たばこを吸う煙管、暖をとる火鉢や温石(現代のカイロ)、玩具の碁石や土製人形、化粧用の紅を入れる紅猪口、髪油(整髪料)を入れた油壺、文房具の硯、烏餌を入れる餌猪口など実に多彩な遺物が出土しており、屋敷地に暮らした人々の生活を垣間見ることができる。また、大学17号館建設時の調査では、土坑の中から脇差や銭貨等とともにイヌの骨が大量に出土しており、屋敷でイヌを飼育していたことも判明している。

しかしながら、詰人空間と考えられる場所で出土した資料の多くが、18世紀後半以降に帰属する点には注意が必要である。恐らくは、松平家がこの地を拝領した後しばらくは、屋敷地の外周部まで利用する状況にはなく、18世紀後半になってから外周部の積極的な開発が進められたものと考えられる。その背景については不明な点が多いが、屋敷内の人口増加を受けて敷地の外周部を活用する必要が生じ、大勢の家臣団を収容するための長屋を巡らせた可能性は考えても良いだろう。

以上のように、青山キャンパス内の断続的な発掘調査により、江戸上屋敷に関する情報が蓄積されてきている。屋敷地の内部構造は絵図等には記されておらず、部分的にせよ、その構造の一端が明らかになった意義は大きい。しかし、屋敷地全体からすると発掘が及んだ範囲は僅かで、中核部である御殿空間に関する情報はほとんど無い。

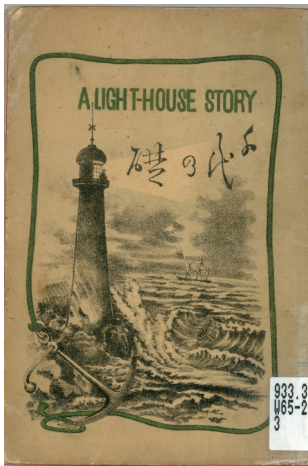
青山キャンパスに眠る貴重な遺跡を適切に保存しつつ、遺跡の学術的な評価を定めていくためには、非破壊の地中レーダー探査などを駆使して屋敷地内部の構造を明らかにしていくことが今後必要となろう。

主な参考文献

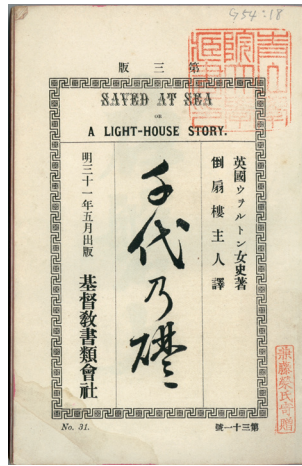
- 青山学院構内遺跡調査委員会1994『青山学院構内遺跡』
- 学校法人青山学院・大成エンジニアリング株式会社2021『青山学院構内遺跡 第6地点』
- 土木医2010「第5章まとめ」『青山学院構内遺跡 第4地点』学校法人青山学院・大成エンジニアリング株式会社
- 吉田伸之1988「近世の城下町・江戸から金沢へ」『歴史の読み方2 都市と景観の読み方』朝日新聞社

三浦 徹訳『千代の礎』 第三版について

大学 大学院教育人間科学研究科教育学専攻科目等履修生 望月 宏計



『千代の礎』第三版 表紙



タイトルページ

青山学院資料センター所蔵の三浦徹訳『千代の礎』第三版は、1898（明治31）年5月に基督教書類会社から発行された子ども向けのキリスト教教書である。原著書は英国児童文学作家 Mrs. O. F. Walton の *SAVED AT SEA or A LIGHTHOUSE STORY* である。

三浦徹（1850-1925）は、東京一致神学校を卒業後、教会の牧師として勤める傍ら、キリスト教関連文献の翻訳や子ども向けのキリスト教雑誌『喜の音』の編集発行に携わり、文書伝道に大きく貢献した人物である。

ここでは、『千代の礎』が発行される経緯と、この第三版に至った経過についてたどってみたい。

まず、*SAVED AT SEA*の三浦による翻訳は、Mrs. E. R. Miller・三浦徹編『喜の音』に「海中の救拯（すくひ）」という読み物記事として連載される。その連載は、『千代の礎』の発行される前から始められ、青山学院所蔵『喜の音』に、第6巻62号（明治20年2月1日）・第五回から第7巻78号（明治21年6月1日）・第十二回（最終回）までが確認できる。

『千代の礎』（第一版）が発行されたのは、1887（明治20）年5月である（①）。その発行の経緯は、緒言及び『喜の音』の広告から以下のように知ることができる。なお、この緒言は、第三版に「緒言（第一版）」として再録されているものを引用する。

緒言（第一版）

…讀者幸いに余が拙文を咎むるなく我主が我等の爲に千代の礎にして之に在る者頗き覆らざるの眞理を味ひたまはゞ余は望外の悦なりといふべし

此書を出版する者は米國日曜學校會にして資金は同會々員ハッチ夫人の寄送する所なり…今此書を出版するも同會が我童幼をして主に來らしめんとするにあれば日曜學校の設ある所は必ず一本を備へて其益を得られんことを希望す

明治廿年五月十八日 於東京 三浦徹 誌

（③pp.1-3）

『喜の音』第6巻65号1887（明治20）年5月1日 最終ページ（p.14）

○ 廣告 千代の礎 英國有名のウラルトン女史が傑作の燈臺物語を譯したる者なり…我國の安息日學校にして生徒の爲に一本を備んとする者は其何派たるを論ぜず御申込次第進呈すべし…

三浦 徹

三浦は、『千代の礎』の出版について米国日曜学校会々員のハッチ夫人（Mrs. Walter Hatch）の寄付金によるもので、宗派を問わず希望により国内の日曜学校に無償で配布し、本書を通して生徒がキリストへの信頼をより強くすることを望むと記している。

緒言にある「我主が我等の爲に千代の礎にして之に在る者 頗き覆らざるの眞理を味ひたまはゞ余は望外の悦なりといふべし」とは、出版に当っての三浦の切なる思いであり、その「眞理」こそ本書の主題であり、『千代の礎』と題されている所以でもある。

次の写真は、その「眞理」を三浦自身が揮毫したものであり、第三版のタイトルページの次から4ページにわたり載る。



三浦の揮毫

「在磐上者不願覆 丁亥五月 二洲徹額 二洲
徹印」とあり、「磐（いはほ）の上（うへ）に在（あ）る者（もの）は頗（かたむ）き覆（くつがへ）らず」と読める。丁亥（ひのといのしし）は、第一版の発行年（明治20年）の干支、二洲は三浦の雅号である。

続いて、『千代の礎』（第二版）の発行は、翌年の1888（明治21）年3月である（②）。しかし、第二版とは明記されておらず、奥付にある発行年から第二版であることが推測される。

『喜の音』『海中の救拯』及び第一版、第二版の文章や文体には大きな変更は見られず、誤字や読み仮名、読点、会話の「」（かぎ）などの訂正が確認される。それらの訂正から読者である子どもの理解への配慮が感じられる。

そして、第三版は、第二版の十年後に発行される。その緒言は、次のようにある。

第三版緒言

本書の最初の出版は前の緒言に云えるが如し。

第一版、第二版は其文章奇態にして余が友の一人は「車を曳きて阪道を登る者の足

並の如し」と評し、余自身も大に後悔して恥かしく思ひ、且又誤譯もありたれば再譯せんとの望ありたり。

然るに一昨年中會社にては第三版印刷に着手すると聞き、此機失ふべからずと思ひ、會社へ再譯のことを申入れたるに許されたり。…

明治卅一年四月廿四日於盛岡 三浦徹 識

（③第三版緒言pp.1-3）

三浦は、誤訳も含めて文体や文章表現など、時代の変化を勘案して再訳する必要を感じていたのであろう。

例えば、先の「眞理」を表す讃美歌は第二版で、「かたきいはほのキリストに われはたちけり もとゐなき いさごにたてるものとは しづみはてなん ながれなん」（②p.58）とあり、第三版では、「わが身の望は きみの血しほなり 耶穌きみのほかに たよるかたぞなき、千代へし磐石（いは）こそ 我の立處（たちど）なれ 我の立處なれ」（③p.73）と、より具体的に翻訳することで、キリストへの信頼によってこそ安心が保たれることを強調している。

第三版の改訂では、主人公少年アrikを主語にして子どもの思考、心理の描写を増やし、口語的文章表現を取り入れて子どもに親しみやすい物語にしようとする意図が見られる。

<参考文献>

- ・『喜の音』第6・7・8巻合綴 三浦徹発行（第7巻79号-第8巻96号は三浦千尋発行）1887-1889（青山学院資料センター所蔵）
- ・Walton, O.F. Mrs. 著 三浦徹訳『千代の礎』1887.5序（早稲田大学所蔵）①
- ・ウヲルトン著 三浦徹訳『千代の礎』三浦徹発行 1888.3（国立国会図書館所蔵）②
- ・ウヲルトン著 三浦徹訳『千代の礎』第三版 基督教書類會社 1898.5（青山学院資料センター所蔵）③
- ・日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教歴史人名辞典』教文館 2020

資料センター利用状況等（2023年度前期利用状況）

1. 月別利用者数（ ）内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
展示見学者数		216 (97)	220 (52)	1712 (836)	366 (645)	702 (2169)	216 (193)	3432 (3992)
資料閲覧者数		6 (11)	6 (5)	11 (9)	5 (5)	3 (2)	4 (10)	35 (42)
閲覧者の区分	本学学生	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (2)
	現教職員	2 (7)	5 (3)	5 (2)	2 (0)	2 (0)	2 (3)	18 (15)
	旧教職員	0 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (2)
	校友	3 (0)	0 (0)	1 (3)	0 (1)	0 (0)	1 (4)	5 (8)
	一般	1 (4)	1 (1)	3 (3)	3 (2)	1 (2)	0 (3)	9 (15)
利用の目的	教会史編集	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	学校史編集	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
	著述・論文作成	0 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (3)	0 (0)	0 (2)	5 (6)
	伝記資料調査	1 (3)	1 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (6)
	記録類の調査・研究	2 (2)	2 (0)	3 (4)	0 (1)	0 (2)	1 (3)	8 (12)
	その他	3 (6)	1 (3)	7 (5)	3 (1)	3 (0)	1 (4)	18 (19)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	37 (33)	10 (44)	64 (39)	4 (180)	1 (7)	7 (20)	123 (323)
	メソジスト教会関係 (B)	22 (31)	23 (15)	1 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	46 (52)
	英語・英文学関係 (旧 F)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	明治期キリスト教関係 (旧 G)	30 (0)	30 (0)	7 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	67 (4)
	一般分類図書	1 (1)	28 (3)	9 (6)	2 (4)	17 (0)	1 (22)	58 (36)
	その他	0 (0)	1 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)

※ 利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数（ ）内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
件数		12 (11)	14 (12)	15 (15)	4 (11)	6 (5)	8 (11)	59 (65)
質問者の区分	学生	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)
	現教職員	7 (10)	10 (5)	10 (8)	2 (2)	3 (2)	2 (2)	34 (29)
	旧教職員	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (1)
	校友	2 (0)	1 (1)	3 (2)	0 (1)	2 (0)	1 (5)	9 (9)
	一般	2 (1)	3 (6)	1 (3)	1 (7)	1 (3)	4 (4)	12 (24)
質問内容	文献所蔵調査	4 (5)	4 (4)	2 (6)	1 (3)	1 (1)	5 (5)	17 (24)
	写真所蔵調査	3 (5)	6 (1)	6 (2)	1 (0)	3 (0)	1 (1)	20 (9)
	事項調査	3 (1)	3 (6)	6 (7)	2 (7)	2 (3)	1 (5)	17 (29)
	その他	2 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	1 (0)	5 (3)

3. 日誌抄

2023年
4月

- ・貴重書資料、修復のため業者へ貸出
- ・相模原キャンパスB棟にて、第1回サテライト展示を開催（会期：4/7～5/31）
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会（第1回）を開催
- ・新任職員研修会のためキャンパスツアーおよび展示ホール見学案内
- ・業者によるデジタルアーカイブ操作説明会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・八王子栄光教会様、展示ホール見学
- ・大学総合文化政策学部鳥越ゼミ、展示ホール見学

・津田塾大学同窓会様、展示ホール見学

5月

- ・青山学院オリジナルエンディングノート勉強会メンバー、展示ホール見学
- ・2023年度第1回資料センター展示委員会を開催
- ・臨時全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院ミュージアム建築関係部会を開催
- ・青山学院ミュージアムデジタル分科会を開催
- ・八王子栄光教会様、展示ホール見学
- ・登龍中学様、展示ホール見学
- ・創立150周年記念事業実行委員会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・2023年度第1回資料センター運営委員会を開催
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会（第2回）を開催

6月

- ・大学又平先生引率青山スタンダード「日本事情V」受講生、展示ホール見学

- ・大学宗教主任高砂先生引率YMの会様、展示ホール見学
- ・青山学院ミュージアムデジタル分科会を開催
- ・相模原キャンパスB棟にて、第2回サテライト展示を開催
(会期: 6/10~8/30)
- ・大学ベアレンツウィークエンドキャンパス見学会のため開館時間延長 (6/10)
- ・浦和実業高校様、展示ホール見学
- ・大学写真研究部「新人展」のため展示室5を貸出
(会期: 6/19~6/23)
- ・大学総合文化政策学部鳥越先生引率都市環境デザイン会議様、展示ホール見学
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院150年史編纂本部会議に出席
- ・2023年度第1回青山学院史研究所運営委員会に出席
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会 (第3回) を開催
- ・「平戸海の生活」事前学習資料、初等部へ貸出

7月

- ・2023年度第1回青山学院150年史編纂委員会に出席
- ・八王子栄光教会様、展示ホール見学
- ・青山学院エンディングノート勉強会メンバー、展示ホール見学

- ・防災訓練 (設置学校応援班事前訓練) に参加
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会 (第4回) を開催
- ・定期試験監督補助応援業務
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』28号発行

8月

- ・青山学院ミュージアム展示構成分科会を開催
- ・韓国監理教神学大学様、展示ホール見学
- ・相模原キャンパスB棟にて、第3回サテライト展示を開催
(会期: 8/31~11/30)

9月

- ・臨時全学院事務連絡会に出席
- ・総合防災訓練に参加
- ・大宮開成高校様、展示ホール見学
- ・青山学院ミュージアム展示構成分科会を開催
- ・創立150周年記念事業実行委員会に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・大学同窓祭のため展示ホール開館 (9/23祝日)
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会 (第5回) を開催
- ・東北学院出向研修受入職員、展示ホール見学案内

2023 年度前期受入れ

資料

(学内部署からの移管資料は除く)

寄贈 (敬省略、受入順)

松岡正樹

- 『基督教と生活 講演集』メソヂスト出版舎 1895年4月
- 「日本メソヂスト平壤教会ノ内部」写真 絵葉書
- 日本メソヂスト教会振興運動「我等の新伝導地 樺太・満州・臺灣」絵葉書 1932年3月5日 (写真①)

本多泰

- 『本多庸一の親族 明治・大正・昭和、そして』上下巻 本多泰著 2023年3月20日

福岡女学院資料室

- 『Memoirs of Jennie M. Gheer 1879-1910』Stella R. Millikan編著 2023年3月31日

山室宗作

- 横浜市中区山手「美會神学校」開校の地・「日本メソヂスト教会」起源の地関連資料

津上智実

- 「ヘンデルのオラトリオ《メサイア》の日本初演—その実態と成立の経緯—」『音楽楽』第68巻抜刷 2022年

山口温子

- 『英和対訳袖珍辞書』1867年 (写真②)

青山学院大学英米文学科同窓会

- 「青山学院大学文学部英米文学科同窓会会報 Aoyama Sapience」第49号 2023年8月21日

青山学院女子短期大学同窓会

- 「青山学院女子短期大学同窓会会報」第49春号、秋号 2023年4月25日、10月1日

NPO法人安房文化遺産フォーラム 池田恵美子

- 「房州とイタリアを愛した画家 寺崎武男・生誕140年」作品資料展 関連資料一式 2023年3月25日

立教大学立教学院史資料センター

- 『立教学院百五十年史』第一巻 2023年2月3日

青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会

- 「グリーンハーモニー OB NEWS」No.67 2023年4月

桑村かすみ (職員)

- 中等部 十二青生会名簿 昭和12年卒業生名簿 1970年2月
- 青山学院創立百二十周年 合同同窓生名簿刊行記念 同窓交

流のつどい チラシ 1994年11月

新田春信

- 「青山学院大学神学部同窓会会報」No.56、57 2023年4月10日、9月1日

佐藤晟雄

- 「去りにし日々 (随筆集)」佐藤晟雄著 2023年7月25日
- 「わたしのスケッチブック」(1) ~ (11)、(13)、(14) 佐藤晟雄著 2003年8月1日~ 2018年4月25日

関西学院大学学院史編纂室

- 『関西学院のエスプリを追って カナダ、アメリカ、ラトビアへ』池田裕子著 2023年5月28日

黒崎裕

- 『女子禮法教科書』1931年11月25日 (写真③)
- 卒業記念健歩実施要項
- 旅の葉 家政科1年 箱根の旅 (一泊二日) 1942年10月30日
- 箱根遠足写真3枚 大涌谷、芦之湯六道地藏、芦ノ湖 1942年10月30日
- 女子専門部家政科写真35枚 遠足、南寮、運動会、寄宿舎 (南寮) および女学部校舎ほか

小林和幸 (大学附置青山学院史研究所所長)

- 『葛藤と模索の明治』小林和幸編 2023年6月30日

大坪覚

- 『東京のワクワクする大学博物館めぐり』大坪覚著 2023年6月30日
- 『TOKYO大学博物館ガイド』大坪覚著 2009年9月9日

鈴木義子

- 脇屋義人自筆年賀状5枚 昭和30年~ 36年 (写真④)

David W. Reedy (大学理工学部教授)

- Boyd Reedy, Jitsuko Reedy UMC宣教師派遣感謝状 1994年11月1日 (写真⑤)

- 永年勤続者表彰式写真 1981年11月26日

- 大木金次郎葬儀写真2枚 1989年9月16日

暮らしの手帖社

- 「表参道・山の手空襲を語り継ぐ」『暮らしの手帖』第25号 summer 2023 8-9月号 2023年7月25日

小島加奈代

- 女子専門部家事専修科写真12枚
ガウチャーレリーフ (金属類回収令により削られた状態) 前の女子学生の写真、学院本部および間島記念図書館写真、構内建物写真

森山緑

- 「大学建築の考察4:青山学院大学 (青山キャンパス)」
「エッセイ2:記憶と歴史をつむぐ建築物—青山学院キャンパスの変遷」森山緑著『慶應義塾の建築 Focus』No.2 2023年9月30日

他大学・学校
●年史・紀要類

購入（受入順）

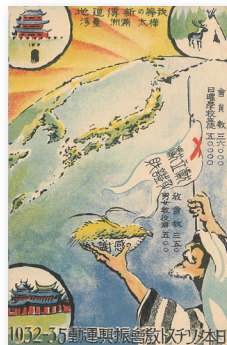
- 青山学院大学文学部 英米文学科生 卒業記念アルバム 1953
- 青山学院管絃楽団第1回定期演奏会 プログラム、チラシ（写真⑥）、チケット半券 1954年11月4日



写真③『女子禮法教科書』



写真④脇屋義人自筆年賀状
消印昭和31年



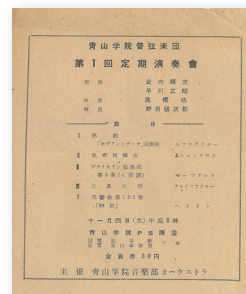
写真①日本メソヂスト教会振興運動「我等の新伝道地 樺太・満州・臺灣」絵葉書



写真⑤Boyd Reedy UMC宣教師派遣感謝状



写真②『英和對譯袖珍辭書』



写真⑥青山学院管絃楽団第1回定期演奏会チラシ

相模原キャンパス開学20周年記念サテライト展示

相模原キャンパスは、2023年に開学20周年を迎えました。そのことを記念して、開学時の相模原キャンパスをテーマに、昨年より5回にわたりサテライト展示を開催しております。ぜひ、相模原キャンパスの歴史を振り返ってください。

会期：2023年4月～2024年3月（予定） ＊5回シリーズで開催

場所：相模原キャンパスB棟1階アトリウム（エスカレーター脇）

第4回サテライト展示の様子



青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。

開館時間

月～金曜日 9:30～17:00（入館は16:30まで）
土曜日 9:30～13:00（入館は12:30まで）

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方はメールにてご連絡ください。

閲覧時間

月～金曜日 9:30～16:30（11:30～12:30は閉室）
土曜日 9:30～11:30

●休室日

日曜日・国民の祝日・夏期休業期間・クリスマス・年末・年始・その他青山学院が定める休日

●お問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
間島記念館2階 青山学院資料センター
TEL 03 (3409) 6742
FAX 03 (3409) 8134
Email ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイト内に資料センターのページがあります。最新の情報および休室日の詳細はこちらからご確認ください。
<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>



押絵雛 展示のお知らせ

会期：2024年2月20日（火）～3月30日（土）
場所：間島記念館2階 青山学院資料センター展示ホール
※詳細は資料センターのウェブサイトにてお知らせいたします。
押絵雛は、1885年頃から数年間、海岸女学校で押絵を教えていた小崎百寿の作品で、百寿の初孫が1882年に生まれてから数年のうちに制作されたと推測されます。
この機会に是非、悠久の歴史を持つお雛様をご堪能ください。



押絵の雛人形

資料センター運営委員

院長（職務上）	山本与志春
常務理事1名（職務上）	楯 香津美
学院宗教部長（職務上）	伊藤 悟
大学図書館長（職務上）	伊達 直之
青山学院史研究所長（職務上）	小林 和幸
大学 教員1名	岩井 浩人

高中部（高）	教員1名	中西 芳恵
高中部（中）	教員1名	森田久美子
初等部	教員1名	小林 寛
幼稚園	教員1名	河瀬ゆり子
総局長（職務上）		石黒 隆文
資料センター事務長（職務上）	岩本 智実	

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
専任職員 2名
派遣職員 1名
パートタイム職員 2名
（週4日：1名、週5日：1名）
『青山学院150年史』編纂業務：
大学附置青山学院史研究所

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 29号

青山学院資料センター編・発行
2024年1月19日発行



印刷：三美印刷株式会社
500部